

2023年4月18日(火)
北海道エアポート株式会社

冬の新千歳空港を支える除雪事業が 第44回 国際交通安全学会賞(業績部門)を受賞！ ～空港運営会社として初、技術伝承・先進技術の研究に高評価～

北海道エアポート株式会社(本社:北海道千歳市、代表取締役社長:蒲生 猛)は、新千歳空港における除雪事業に関する取り組みが、地崎道路株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:渡邊 誠司)北海道支店と共同で、第44回 国際交通安全学会賞(業績部門)を受賞したことをお知らせいたします。

1日約400便が発着する新千歳空港では、日々の降雪状況に応じて、2本の滑走路(3,000m×60m)を交互に除雪することにより、安全を最優先しながら定時運航の確保に努めております。

今回の選考では、総勢約200名の除雪隊による蓄積された技術の確実な伝承に加え、「除雪の省力化」や「雪質分析の高度化」といった、先進技術を取り入れた資本代替策の研究活動に高い評価をいただきました。空港運営会社の受賞は、1974年の制定以来初となります。

当社は今後も、北海道の空の玄関口として安全・安心な空港運営を最優先しながら、北海道発の世界に誇る除雪体制の構築を目指してまいります。

受賞概要

- 業績題目：除雪の力で滑走路を守る－雪とたたかう人々の技術の伝承－
※国際交通安全学会による当社受賞内容の紹介は次頁参照
- 受賞者：北海道エアポート株式会社、地崎道路株式会社北海道支店 ※2社共同受賞



▲原則、雁行態勢で2本の滑走路を交互に除雪し、1本の滑走路を約20分で終えることを目指す



▲写真右から、IATSS武内会長・蒲生・山本・地崎道路株式会社 渡邊社長
(4月14日に経団連会館にて開催された贈呈式より)



国際交通安全学会賞は、公益財団法人国際交通安全学会が、理想的な交通社会の実現に関する研究、ならびにその他の活動に対して褒賞を贈呈し、もって学術の振興と健全な交通社会の育成に寄与することを目的に1974年に制定。業績・著作・論文の3部門で構成され、業績部門では、交通とその安全に関して施策の推進、機器開発、施設建設などに貢献した方々から選考される。
(参考) <https://www.iatss.or.jp/award/>

<本件に関するお問い合わせ>

北海道エアポート(株) 総務・人事部 広報課 0123-46-2990 (代表)

Hokkaido Airports Co., Ltd.

除雪の力で滑走路を守る —雪とたたかう人々の技術の伝承—

北海道エアポート株式会社
地崎道路株式会社 北海道支店



交通インフラの運営者の責務は、通年にわたって滞りなく交通サービスを提供することにあります。わが国の冬期における除雪や融雪といった雪への対応は必須であり、経営的観点から見れば、コスト部門でもあります。

新千歳空港は国が設置、管理する空港でしたが、北海道にある他の6つの空港とともに民営化され、2020年6月から北海道エアポート株式会社（HAP）が運営しています。新型コロナ感染の拡大により航空旅客は急減したものの、それに先立つ2019年には、国内、国際あわせて2,460万人が利用していました。乗降客数は全国第5位で、1日の旅客は67,000人、飛行機は400機にものぼります。

同時に、この空港は北海道のゲートウェイとなる広

大な空港です。除雪面積は275ヘクタールにおよびます。これを支えるのがHAPの管理する除雪のための施設や設備であり、除雪事業を受託する地崎道路株式会社の「除雪部隊」でもあります。

滑走路の除雪には除雪機材が必要で、なかには、わが国唯一の巨大な機材もあります。空港には貯雪ピットがあり、ここには冬季の雪が蓄積され、熱変換された雪は、夏になると冷房用電源として使用されます。そして、HAPは航空会社とともに、国際ルールにもとづいて航空機の雪や氷を取り除く作業も行い、航空機が滑走路を安全に利用できるように努力を重ねています。

除雪作業を請け負う地崎道路株式会社の除雪部隊メンバーは、およそ200名から構成されています。そのう



ちの6～7割が空港近郊の農業従事者でもあり、除雪は彼らにとって農閑期の作業となります。しかし、機材を使いこなす作業員は一朝一夕に育成できるものではありません。まず、作業員は18～20名から成るチームに分かれ、各チームの中で交流を深めながら、経験豊富な作業員から時間をかけて技術は伝承されていきます。活動は冬期であるものの、一年を通して除雪作業に関する教育やコミュニケーションが図られています。なぜなら、自然を相手にする除雪には一度も同じ除雪はなく、1回の作業に要する時間も多様であり、雪の状況に応じた除雪が計画されなければならないからです。降雪状況、雪質などを短時間で判断し、除雪の時間、回数および方法が決めるのです。何よりも、飛

行機の定時運航を確保することが前提となるため、時間との闘いとなります。

除雪部隊のメンバーは「当たり前のように航空機が離発着している状態」を見て達成感を味わい、空港利用者が「何事もなく飛行機を利用できる日常があること」に誇りを抱いています。しかし、課題もあります。増え続けるインバウンド旅客とは対照的に、空港現場の労働者の不足は顕著になっており、除雪作業もその例外ではありません。技術の伝承とともに、省力化、自動化のための実証実験や、雪質の分析の高度化といった資本代替策も研究されています。

雪からインフラの安全を守る仕事に従事される2社の活動を評価いたしました。